

ながい 議会だより

6月議会のあらまし ②

町政を問う10問 ③

一般質問(7議員)

元気な子どもたち
～たくましい成長を～

 第152号
平成22年8月15日発行
神奈川県中井町議会
E-mail gikai@town.nakai.kanagawa.jp

六月定例会

平成二十二年第二回中井町議会定例会を六月八日に開会し、会期を四日とした。町から専決処分の承認、条例の一部改正、道路認定、補正予算、物品購入契約の締結について提案され、いずれも原案のとおり承認、可決し、報告も受けた。人権擁護委員の諮問二件を適任とした。

一般質問は七名の議員が十問にわたり行った。

専決処分

中井町税条例の一部を改正する条例

六十五歳未満の公的年金等の所得を有する給与所得者で、公的年金等に係る所得割額を給与所得に係る所得割額及び均等割額に加算して給与から特別徴収できるようにしました。

主な質疑

問 特別徴収する対象者への周知方法は。

答 課税対象者を抽出し、普通徴収か特別徴収を個々に伺い、周知しました。

条例改正

中井町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

課税限度額、低所得者の軽減割合の見直し、非自発的失業者の保険税軽減等の改正をしました。

道路認定

町道路線の認定について(町道宮中2号線)

道路の円滑な維持管理のため、新規に認定しました。

主な質疑

問 道路の勾配、幅員、水路はどの変更するのか。

答 幅員は四・五mで排水など歩行者等の通行に支障のないようにします。

補正予算

今回可決した補正予算の

物品購入契約

第四分団(境地区)に配備している消防ポンプ自動車が、法律により十五年を経過すると乗れないことから、買い替えます。

主な質疑

問 可搬ポンプでなく消防ポンプ自動車をなぜ導入するのか。

答 消防懇話会の答申もあり、消防ポンプ自動車を中村、境、井ノ口地区に各一台が望ましいと考え、配備します。

主な質疑

問 水田の戸別補償内容と対象者は。

答 対象者は十一 a 以上の面積で六十一名。十 a 当たり一万五千円を予定。



行政報告

総務課

第61回全国植樹祭が神奈川県内で開催され、天皇皇后両陛下が五月二十二日に地方事情の視察として、役場と中井やまゆり園をご訪問されました。

当日は好天に恵まれ、町民共々栄誉なことと感銘を憶え、多くの町民も沿道で奉送迎に参加されました。

福祉介護課

交通弱者対策として、通院や買い物などが困難な高齢者や障がいをもつ方を対象に、町社会福祉協議会への委託事業とした福祉送迎サービス事業が、四月からスタートしました。

五月末現在、22名の登録者で、町内や近隣市町への通院等に利用されています。また、二宮町の温水プールを利用した介護予防を目的とする水中運動教室にも6名の方が参加され、利用形態も広がり好評を得ています。今後も利用者拡大へ向けた制度の普及に努めます。

子育て健康課

所得制限を設けず、中学校修了まで子ども一人につき月額一万三千円を支給する「子ども手当」の支給対象者は、約740世帯、約三百人を予定し、第一回目の支払いを六月に行い、十月と来年二月にも支給します。

環境経済課

今年で三回目の中井中央公園の桜のライトアップは、開花の遅れもありましたが、約500人の来場者を数えました。中央公園では、二月下旬の寒桜から五月の芝桜まで、長い期間に花の観賞ができることから、今後は秦野市を含む一市三町で、花をテーマとしたネットワーク化も検討し、観光イベントとして考えています。

五回目となった竹灯籠の夕べには、小雨混じりの天候ながら、横浜や湘南方面からの来場者を含み約二千人が訪れ、水辺に映る三千百本の竹灯籠の幻想的な演出を堪能されていました。

人事案件の諮問

人権擁護委員に

濱田 昌房氏(再任)
相原 實氏(新任)

を適任としました。

一般質問

六月定例会

質問者本人の原稿を
尊重し、編集しています。

高齢者に優しい対策は 小清水招男議員



問

毎日のニュースの中に、高齢者の孤独死という痛ましく残念な報道が多くされています。

戦後の日本は、高度経済成長と同時に核家族化が進み、二世帯、三世帯の同居家族は減少し、老夫婦だけ

の家庭が増えてきました。町でも地域福祉計画が策定され、きめ細かな活動を計画し、展開されています。

高齢者の皆さんに楽しく老後を過ごしていただく環境を整備することは、私たち町民の責務と考えます。

この目的達成には、地域福祉計画の核となる福祉リーダーの積極的な育成が重要と考えますが、町長の高齢者に対する対策は。

町長

重点的に取り組む

誰もが安心して住みながら地域で暮らしていくためには、地域で支え合う力が高めていくことが重要です。そのため地域の課題やニーズを受けとめ、地域の資源などを活用しながら、

地域での生活を支え、またはコーディネートする核となる福祉リーダーの役割が重要です。

高齢者に対する支援対策も重点的な取り組みに位置づけ、集いの場、活動の場づくりとして、転倒骨折予防教室の更なる普及やサロン活動に対する支援など、社会福祉協議会や民生委員等と連携し、取り組んでいます。

こうした施策を一つひとつきつかけとして、地域のきずなづくりに発展させたいと考えています。

町民活動災害補償制度は 小清水招男議員

問

町民誰もが楽しくいつでも地域でイベント活動ができることは、自治活動を推進する上では基礎的で重要なことです。言うまでもなく、こうした活動を通じて地域にきずなが生まれ、活性化し、地域力が確実に育ち共助の輪が広がります。

地域社会への関心や社会参加の意識が強くなる傾向があり、町民の余暇活動の推進とコミュニケーションづくりを積極的に押し進め、自主的に行動しやすい環境を支援することが町に求められていると考え、町民全員を対象にした「(仮称)町民活動災害補償制度」を導入し、町民が安心して町の活動への参加や地域活動が積極的に展開できるようにすべきと考えますが、町長のお考えは。

町長

検討の必要を認識

本町では、町の主催または共催する行事や活動を対象に、全国町村会で運用する全国町村会総合賠償補償保険制度に加入し、各種事業などを保険対象事業としています。

町では、現在、第五次中



住民参加の町内一斉清掃

井町総合計画後期基本計画の策定にあたり、町民との協働のまちづくりを視点にとらえ、自治基本条例の制定や活動支援体制などを検討しています。今後は条例制定に向けた研究や協議の過程で、災害補償のあり方も、活動促進の一助として検討する必要があると認識しています。

人口増等に関する施策は原 憲三議員



問

平成六年をピークに人口が減少し、特に二十歳から三十五歳が町外に流出しているように思われますが、他の町村で人口増政策を着実に実行しているところがあります。また、生涯学習

も盛んですが、今後の人口増加の施策を伺います。「水と緑、人がきらめく住んでみたいまち」を将来像と定めていますが、「住み続けるまち」ではないかと思いますが施策を伺います。

町長

各種施策を検討

定住化促進に向けた重点施策で小児医療助成の拡大、就労家庭の支援とした保育環境や学童保育の充実など、子育て対策を実施したが、定住人口増に至ってない。

「住みこい」を含む意見に医療、商業、交通対策など改善に向けた取り組みに努め、子育て支援、定住化促進に向けた各種対策に町民意見を取り入れ、検討します。

小・中学生を含む交通不便地域の住民を対象としたデマンド方式の移送方法も検討し、バス事業者を含めた関係機関と今後、計画的に検討を進めます。

汚水処理計画見直しは森 文嘉議員



問

本町の汚水処理事業は、平成元年の公共下水道事業着手に始まりましたが、集合処理施設の場合、今後の汚水処理費用による自治体財政の圧迫、地震に対する脆弱性など多くの問題点が指摘されています。

現在では個別処理浄化槽の優位性が報告され、多くの自治体が汚水処理事業の見直しにより、大幅な事業費削減と事業期間短縮による早期の水環境保全に取り組んでいます。

今年度、下水道事業計画区域の見直しを予定していますが、多額の初期投資による地方債の償還、施設の維持更新、汚水処理費など、現在発言権のない将来世代が多額の債務を負うことを



引用：環境省ホームページ

町長

思い切った検討を

鑑み、市街化調整区域の個別処理浄化槽への計画変更という、思い切った政策転換が必要であると考えます。

町長の考えを伺います。

めてきた上下水道事業は、間違いなかったと考えますし、これまで引き継いできました。

しかし、現在の経済不況の進む中、本町の下水道事業は、決して効率的ではありません。

市街化調整区域を公共下水道工事で進めると約十三億かかり、合併浄化槽では約五億四千万ほどです。先人が水質確保のため進

砂口南が丘線の二期工事は

武井一夫議員



問

砂口南が丘線は、中井町と秦野市を結ぶ重要路線として総延長距離九六〇mが計画され、一期工事分の六六〇mが平成十九年三月に完成し、供用開始となりました。

当初の計画では、二期工事の残り三〇〇mの完成は平成二十二年と砂口自治会や地権者に説明され、事業化に向けて承諾も得ていますが、一期工事区間の完成から既に三年が過ぎましたが、二期工事は一向に始まる気配はありません。全線開通に向け早急に工事を実施することが必要です。そして、残念なことこの道路は砂口側のT字路で

ストップしたままです。

そのため、このT字路は変則的な交通規制を行っており、運転者が優先方向を勘違いしやすく、危険なT字路のため、信号機の設定が必要と感じます。

町長

早急の理由がない

二期工事区間の着手については、利用状況や事業効果、昨今の経済不況の中で優先順位があり、当分の間は、手をつける状況ではないと判断しています。

また、この道路ができれば不都合とか、不便だとかの声は聞いていないので、早急に工事を進める理由はないと思われま

す。信号機の件は、警察の見解では、現在のところ設置する状況にはないとのことですので、町としてできる安全対策を講じながら、改めて公安委員会に話をしていきます。

女性へ費用補助を含む支援を

杉山祐一議員



問

小児医療費助成の拡大、健康に係る様々な支援や早期発見・治療を含め予防対策も重要なことです。

そこで、町長に伺います。

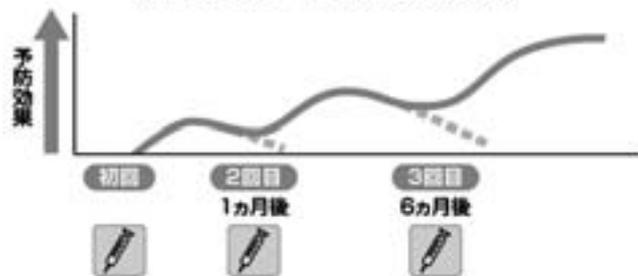
① 特定健診、健康づくり健診、予防接種の実績等、評価と今後の取り組みは。

② 女性特有のがん疾病に対する検診実績と支援策及び今年度中に子宮頸がん予防ワクチン接種の全額助成を。

町長
ワクチン補助実施

③ 町民にわかりやすいPR方法の構築について。

接種スケジュールと感染予防効果



施している。

がん検診は、受診者数が伸びているが、目標受診率の五十％に達していない。

予防接種は乳幼児のポリ

オ、三種混合等で九十五。

今後、健診の受診率向上のため、未受診者訪問指導

モデル事業を活用して、受診勧奨を行い、医療機関や

受診期間を順次拡大する。

②クーポン券による受診実績は乳がん四十四％、子宮

頸がん三十一％であり、前年を上まわり効果があった。今年度も昨年同様

に努め、周知文書を全戸配布又は回覧等を行う。

料実施し、普及啓発に努める。

道路計画は植木清八議員



問

町民の安全で安心な生活を支える一つに、道路網の整備があります。将来を見据えた道路基本計画がありますか。

十七の幹線道路、一九五の一般町道の整備・改良は

問

進んでいます。今後、人口増加対策により開発が行われ、住宅、工場等が建設されると道路の拡幅など、やり直すことになったら大変な費用がかかります。現在、消防自動車や救急車が入れない狭い生活道路があり、事故が起きてからでは遅いのです。

また、道路の幅員が狭くて建て直しや増築の許可が出ません。地区住民を指導



整備された五所宮地区

して認定町道を増やしては

先日、平塚松田線が通行止めになり交通渋滞を起しました。中村地区の住民の方々から比奈窪ハイバスの早期開通の要望がありました。開通の見通しは。

町長 プランはない

総合計画や都市マスタープランに、安全で安心して通行しやすい道路環境の整備を計画的に推進していく方針を明記しているが、道路マスタープランはない。生活道路は、地域の要望・意見、必要性を踏まえ計画的に改良工事を行っている。

認定町道は認定条件に整合が図れるかの判断が必要。建築確認には、現在の法律の中では課題がある。比奈窪ハイバスの問題は、長い長い懸案で、要望については十分深く受け止める。早く開通するように、一生懸命折衝を重ねる。

非核平和宣言の生きた行政を 小沢長男議員



問

平成四年に中井町議会は非核平和宣言に関する決議をしています。

五十三回目の原水爆禁止国民平和行進が今年初めて中井町コースを新設し、

五月十七日に町長からの歓迎あいさつが職員から読まれ、私もあいさつした後、「核兵器のない世界のために一緒に歩きましょう」「憲法九条と非核三原則を守ろう」と一緒に行進しました。核不拡散条約再検討会議が行われ、核廃絶が世界の

人々の願いになっています。今、「中井町非核平和宣言に関する決議」の実現を目指した世論の力、運動が求められています。町として、今後、平和行進・核兵器廃絶署名の呼びかけ、平和展・講演など平

和宣言に沿った行政の考えはないですか。また、憲法第九条を守ることや米軍普天間基地の無条件撤去についての考えは。



初めての町内行進

町長 国際平和を願う

町でも「中井町非核平和宣言」を掲げ核兵器を廃絶し、町民皆で水と緑に恵まれた郷土を守り、安心して安

全な町づくりを町民協働で進めている。憲法第九条を守ること、私としても戦争のない国際平和を心から願っている。ご理解を。沖繩の住民に本当に申し訳ないが、日本の国土を守る施策として沖繩で基地を受けていただき、そのかわりに国民が沖繩に対して支援する、その気持ちによって沖繩が生かされると思う。

町でも「中井町非核平和宣言」を掲げ核兵器を廃絶し、町民皆で水と緑に恵まれた郷土を守り、安心して安

町民の生活を優先に 小沢長男議員

学校給食会計を特別会計に 小沢長男議員

問

生涯学習活動の拠点となる生涯学習センターも必要ですが、今の財政状況、町民の生活実態から建設に私 は慎重を求めています。

ところが、町長は「町の借金も十七億円台まで減ったので」と建設願望を示されました。借金が減っても

一般会計と下水道会計で毎年七億円台の返済がありま す。この返済がなかったら、学校給食、保育園・幼稚園・

学童保育の保育料無料、払いきれない過酷な国保税の引き下げなどが実現できま す。借金があってもこれらを優先すべきです。 町民の所得の減収、企業の業績悪化で状況が厳し

い今、町が箱物建設で借金返済額を増やせば、町民への我慢の押し付けになります。

自民・民主両党を初め新党が法人税を減税し、消費税を増税すれば、町民の生活は更に深刻になります。 箱物建設には慎重になり、町民生活を第一とする町政を求めて考えを伺います。

問

現在、学校給食費は口座引き落としです。口座に入金されていないかたり、滞納することも何件かあるようです。滞納した場合、家庭に連絡を取るなど、担任の先生が対応し、立て替えたりし、先生に負担が転嫁されていると聞きます。実態は。

学習時間や事務量の増など、授業準備や子どもと接する時間がなくなっている先生の負担は、軽減するべきではないでしょうか。 近隣の町では、「監査意見書」に基づいて学校給食会計を町の特別会計にしました。収支をより明確にするの理由ですが、特別会計にすることにより、会計責任を町に移行し、口座振替手数料の保護者負担をなくし、給食費への補助なども行えます。また、先生の業務外負担の軽減につながるものと思います。



箱物建設は慎重に

町長 バランスを維持

農村環境改善センターは、多目的ホールの活用面や読書環境の改善などの要望も多く、また、バリアフリー的にも課題があり、改善に向けた対応方針を検討する「生涯学習施設等整備検討委員会」を設置した。

行政は、公的施設の確保はもとより、福祉・医療など、町民生活を守る使命をもつことから、画面にわたり、バランスを維持しながら町づくりを進めていく必要がある。

教育長 考えていない

町でも学校給食会計を特別会計にする考えがないかお尋ねします。

給食費に関する事務については、各校の給食担当教職員が行っている。未納者への対応は、各校の教頭及び給食センター所長と教育



楽しい学校給食

町長

特別会計にして透明性をもつことは、将来的に町が取り組むべきことで、給食費への補助などは別の角度から考えていく問題と

委員会の担当職員が行っている。教職員の給食費の立て替え払いなどはない。特別会計への移行は現時点では考えていない。

議案等審議の結果

件名	月日	審議結果	件名	月日	審議結果
行政報告	6月8日		人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	6月11日	適任(賛成全員)
一般質問	6月8日		人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	6月11日	適任(賛成全員)
専決処分の承認を求めることについて(中井町税条例の一部を改正する条例)	6月11日	承認(賛成全員)	議員派遣結果報告について	6月11日	報告
中井町国民健康保険税条例の一部を改正する条例	6月11日	原案可決(賛成全員)	議会運営に関する事項	6月11日	議会運営委員会閉会中の継続審査
町道路線の認定について(町道宮中2号線)	6月11日	原案可決(賛成全員)	所管事務の調査について(1)農業振興対策について	6月11日	総務経済常任委員会閉会中の継続審査
平成22年度中井町一般会計補正予算(第1号)	6月11日	原案可決(賛成全員)	所管事務の調査について(1)保育のあり方について(2)健康増進対策について	6月11日	文教民生常任委員会閉会中の継続審査
物品購入契約の締結について(平成22年度消防ポンプ自動車購入)	6月11日	原案可決(賛成全員)			
平成21年度中井町一般会計繰越明許費繰越報告について	6月11日	報告			

※議長は採決に加わりません。(各議員の賛否は町のホームページに掲載しています。)

あなた自身で

議場の雰囲気

次回の定例会は
9月7日からの予定です。

だれでも、お気軽にどうぞ!

役場庁舎3階議会傍聴席入口にて、名簿帳に名前を記入してください。

出入は自由です。

議会のうごき

五月

19日 全国町村議会議長副議長研修会

24日 常任委員会正副委員長事務局長研修会

1日 議会運営委員会六月定例会の運営について協議した。

六月

8日 定例会本会議

11日 定例会本会議 全員協議会

町村情報システム共同化の推進、緑の基本計画改定、平成21年度教育委員会点検及び評価結果について、行政から説明を受けた。

七月

6日 議会だより編集委員会
15日 議会だより編集委員会
22日 議会だより編集委員会

委員会活動

総務経済常任委員会

5月11日(協議会)

所管課の業務内容の説明を受けた。

6月10日

所管事務調査の農業振興対策について審議した。

6月29日(協議会)

所管事務調査の農業振興対策について、野菜直販組合と意見交換を行った。

7月22日(協議会)

所管事務調査の農業振興対策について、今後の取り組みを審議した。

5月14日(協議会)

所管課の業務内容の説明を受けた。

6月9日

所管事務調査の保育のあり方、健康増進対策について審議した。

7月26日(協議会)

民間保育園の運営状況等について、木之花保育園を視察した。

町民の声

山口幹雄(松本下)

最近、子どもたちの中村川でうなぎや魚を捕ったこと、川をせき止めて泳ぎの練習をしたことなどが懐かしく思い出されます。まさに「山は緑に水清き中井の里」でした。私の会社勤め生活は、昭和四十一年から始まり四十五年目を迎えています。課題は通勤だと思えます。特に問題なのは、時間が遅くなるとバスの運行がなくなり、家族の協力なしでは帰宅が難しいことです。このことは、町から通勤・通学している人達には、大きなハンディキャップです。よく「住みよい町づくり」という言葉を耳にしますが、住みよい環境には緑豊かな自然も大切ですが、生活していくうえで、利便性は最も大切だと思います。住みよい環境づくりに向けて町・議会・町民が、一体感をもって知恵を絞る時だと感じています。

編集後記

定例会閉会后に、七年の歳月をかけ小惑星探査機「はやぶさ」が小惑星「いとかわ」のサンプルを採取し、六〇億kmのとてつもない旅を終え帰りました。本体は大気圏で燃え尽きたが、カプセルは回収され、無限の可能性や獨創性を改めて教えられ、感動的な出来事でした。参議院議員選挙の結果は、与党が大敗し「ねじれ国会」となりますが、日本の未来のためにより良い国政運営が望まれます。いかがでしたが、議会だより一五二号は、皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

議会だより編集委員会

- 委員長 小沢長男
 - 副委員長 岸野照男
 - 委員 原 憲三
 - 委員 岸 光男
 - 委員 相原啓一
- 問い合わせ 議会事務局

☎ 八一一三九〇五